

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

呉市は、「呉市都市計画マスタープラン(平成29年3月改訂)」において「地域がつながり、にぎわい、住み続けられる都市・くれ～コンパクトで持続可能なまちを目指して～」をまちづくりの基本理念に掲げ、この基本理念の実現に向けて、次の3つのまちづくりの基本的な方針を定めている。

①人と地域のつながりを生む、「自立した拠点」を育てるまちづくり

人と地域がつながり、支え合え、安心して暮らせるまちを実現するため、便利で快適な日常生活の場の確保と地域を結ぶ交通ネットワークを構築し、地域コミュニティを醸成できる自立した拠点を育てるまちづくりを推進する。

②住む人の笑顔を生む、「安全と安心」を育てるまちづくり

住む人が笑顔で暮らし、住んでよかったと思えるまちを実現するため、誰もが移動しやすい、交通ネットワークの構築や防災・減災対策を推進し、安全・安心に住み続けられるまちづくりを推進する。

③にぎわいと活力を生む、「くれの顔」を育てるまちづくり

にぎわいと活力を創出するとともに、個性あふれるまちを実現するため、美しい自然や歴史・文化、地域産業等の呉ならではの特色ある地域資源を活かした「くれの顔」を育てるまちづくりを推進する。

その上で、元気ににぎわいあふれる呉を目指す「くれワンダーランド構想」や「呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成30年度改定)」で目標としている、産業の競争力強化や人材の発掘・育成、対外的な情報発信の強化、子育て環境や医療を含む生活環境の充実などの多方面に対して活用可能なデータプラットフォームを整備する。そして、こうしたデータのオープン化の推進により、AI・ICT・IoT技術を取り込んだ地域の活性化につなげ、人口が減少する将来社会においても持続可能な都市の最適なかたちを、都市全体の観点から分析して実現していくことを目指す。

このため、それらの情報が集約され活用・実現される実空間の地域拠点として、国道・鉄道・港が近接する立地性を活かした呉駅周辺の開発および次世代型の総合交通ターミナル化の検討を進める。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙2の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>①人口減少社会の進行により、JR・路線バス等の公共交通利用者が減少しており、今後日常生活に必要な公共交通基盤を維持していくためには、公共交通の利用促進を図るとともに、まちづくりと一体となった持続可能な公共交通ネットワークの形成とマネジメント体制の構築が課題となっている。</p> <p>②本市は、海軍工廠のまちとして急速に発展した歴史的背景から、生活道路等の基盤整備がされないまま斜面地に市街地が拡大した経緯がある。こうした斜面市街地に居住する高齢者等の移動手段の確保が課題となっている。</p>	(ア)交通・モビリティ
<p>平成30年7月豪雨災害では、市内各所で土砂崩れや河川の氾濫、浸水等が発生し、25名もの尊い命が失われた。また、交通網が寸断され、長期間に渡って人流・物流に多大な支障が生じた。これを契機として、より一層の防災機能の強化が求められるとともに、災害の記憶の継承方法についても課題となっている。</p>	(ウ)防災
<p>本市は、大和ミュージアム・入船山記念館など歴史・文化を感じさせる施設や瀬戸内海を始めとする美しい自然など多くの特色ある地域資源を有しており、こうした資源を活かした周遊観光の推進やインバウンド受け入れ環境の整備が課題となっている。</p>	(オ)観光・地域活性化

人口減少、空き家の増加により、市街地の低密度化が進行しており、今後、商業・医療・福祉等の生活に必要な機能の維持が困難となることが想定される。このため、誰もが便利で快適に暮らせるコンパクトな都市構造への転換が必要である。	(サ)コンパクトなまちづくり
---	----------------

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

前述した課題の解決に向けて、JR・バス・航路など複数の交通モードが結節する呉駅周辺地域をスマートシティ実現に向けた拠点とし、次のことに取り組む。

○次世代モビリティ(BRT・自動運転車等)の導入
 呉駅周辺地域を起点とした次世代の生活支援として、都市間・地域拠点間をつなぐ基幹ルートへのBRTの導入や、基幹ルートから斜面市街地などをつなぐ生活路線への小型モビリティの導入、各モビリティへの自動運転を組み入れた次世代の交通システムの導入などを旨とする。このような次世代モビリティを活用した交通ネットワークの形成により、高齢社会における日常生活の利便性向上や、交流人口増加を目指した観光流動の活性化を図る。

○MaaSの実現
 呉駅周辺の交通結節点としての特性を活かし、バス・鉄道・船舶など個々の交通サービスや事業のデータを集約して、各交通手段の相互の関連を「見える化」するとともに、最適な相互連携の形について検討を重ねることで人々の移動をシームレスにつなぐサービス(MaaS)を実現する。また、各データを活かして効率的な公共交通の運行を実現するなど、管理・運営面での効率化を推進する。

○防災機能の強化など
 呉駅前において、災害時の市民・観光客及び帰宅困難者等の一時避難場所としての広場空間を確保するほか、情報を集約・発信する拠点を確保するなど、防災対策を推進する拠点とする。また、次世代モビリティとして燃料電池車を導入し、発災後に走行場所で即座に救援活動が可能な移動式非常電源の確保を検討する。
 災害の記憶の継承方法については、ICTを活用した防災対策としてAR(拡張現実)により実際の災害を疑似的に再現することで、防災意識の向上を図ることができないか検討したい。

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

呉市は人口15万人以上の都市の中で高齢化率が34.6%(H30.9.30現在)と2番目に高く、全国に先駆けて高齢化問題に直面している。中でも移動困難者への交通サービスの提供は大きな課題であり、人口減少により路線バス等の維持が困難となっている状況下において、高齢者の移動手段を確保していくことは非常に大きな課題である。

こうした利用者側の困難をAI・ICT技術を活用した小型モビリティサービスの導入等により解決すると同時に、管理者・運営者の視点からも集約した利用データを分析することで人口減少下も運用可能な最適化された交通システムを構築したいと考えている。ひいては、こうした取組により、防災機能の強化や観光客の受入環境の充実、更にはコンパクトなまちづくりを推進したいと考えている。

(5) その他

現在、JR呉駅を中心とした周辺地域において、交通結節機能の強化や都市機能の集約等を目指した呉駅周辺地域総合開発の検討を進めており、都市交通の専門家等から構成される有識者会議から、次世代モビリティへの対応やMaaSの実現、情報や知識が集約される公民連携の運営の拠点(アーバンデザインセンター)の整備など、AIやICT技術の活用を視野に入れた次世代交通ターミナルの実現に向けて、御意見・御提案をいただいている。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
企画部企画課	島津江 康統	0823-25-3273	kikaku@city.kure.lg.jp